

WIN CONCORD
WIN コンコード

NEWSLETTER

2024
vol.34



Human Active Network

和歌山大学名誉教授 永野基綱

WIN コンコードは30年を越える歴史をもっています。和歌山に来て和歌山で学ぼうとする留学生の方々の志は昔も今も変わりませんが、時代は随分変わりました。

かつて、遠く母国を離れて、ひとり和歌山で生活を始めた留学生の方々は、大変心細かったことと思います。例えば、体調が悪くなった時、家族に相談しようとしても、当時は、たくさんのコインを用意して公衆電話を掛ける他ありません。電話できたとしても、母国のお母さんには、和歌山でどうすればよいかは分かりません。そんなとき、連絡すると来てくれて、時には一緒に病院に行ってくれる。それが、WIN コンコードでした。

でも今は、スマートフォンで、本国の家族と顔を見ながら話せます。近くの病院を探して予約でき、地図と径路も詳しく分かります。

もちろん、普段の生活でも、いまやスマホは欠かせません。大学に行って掲示板を見なくても必要な情報が得られ、オンラインで授業を受けたりレポートを提出したりもできます。必要な物を注文したり、友達と連絡したり、聴いたり観たり読んだりを楽しむのもスマホです。人とつながり人を介さなくとも、ネットでつながり、望む情報を得ることができる時代。人とつながり人を介さなくとも、さしあたりは困らないのが、今の時代

です。

WIN コンコードは、”Human Active Network” という言葉を、活動の柱に掲げて来ました。人と人とのつながりによって、和歌山という地域を活性化し、世界に結び付けてゆこうということです。

今は、ネットワークということば自体が、インターネットを連想させる時代です。しかし、人と人とのつながりが無意味になったわけではありません。むしろ、今の時代だから、Human Active Network の重要性が大きくなっています。

もしも和歌山に来た外国人が、インターネットを活用して、不自由なく生活して帰国しただけなら、その人が思い出す和歌山は、単なる情報のまとまりに過ぎません。しかし、もし滞在中に一度でも和歌山の人々とつながる機会があったなら、それこそが、和歌山の思い出として心に残るでしょう。

留学生の方々にとって、和歌山が、単なる留学先の地方都市ということを超えて、第二の故郷と思ってもらえるようになるとすれば、それは、和歌山で暮らす人々とのつながりによってです。一緒にどこかへ行ったり何かをしたり、また困ったときに相談したり、人と人がふれあいつながる交流と支援の輪をひろげてゆくこと。Human Active Network の重要性は、インターネットの時代になっても、いやそんな時代だからこそ、ますます大きな意義をもつと思われます。

WIN コンコードの、人のつながり Human Active Network を大事にする活動は、これからも変わらず続いてゆくでしょう。



カラオケで一つになった私たち

セシリア（インドネシア）

日本での留学生生活を過ごしていく中で、よく大学へ、寮へ、スーパーへ足を運んできた。しかし、意外なことに、それ以外によく行った場所のひとつが、カラオケだった。「カラオケ」という言葉は、空の「カラ」とオーケストラの「オケ」の省略である。カラオケ形式の機械は日本で開発された。最初の機械が発明される以前から「カラオケ」という言葉は、日本のエンターテインメント業界で生バンドを手配できない場合に、歌手のために楽器の録音を使用することを指す言葉として使われていた。カラオケの最初の原型は 1967 年に作られ、現在はアジアをはじめ世界中に広まった。

いつの間にか、他の留学生の友達と一緒にカラオケに行くことが、日本に住んでいる間の楽しみの一つになっていた。課題や試験に追われていたときも、「全部終わったら、週末にカラオケに行こう！」という言葉は、全てを乗り切るモチベーションになり、ストレスを解放しながら思い切り歌うのをいつも楽しみにしていた。同じように、誰かが誕生日を迎えると、みんなを集めて一緒にカラオケでお祝いする。それに旅行中、ちょっと一息つきたいときも、カラオケで足を休める。暇な時の時間つぶしから、試験や勉強の後のストレス解放、歓迎会、送別会、誕生日、クリスマスパーティーなどのめでたい日まで、全てカラオケで祝える。私たちは皆、クセになるくらい、カラオケにハマったと言えるかもしれない。趣味は何かと聞かれると、「カラオケです」で答えるくらい、よくカラオケに行った。

音楽を愛し、歌うことが大好きな私は、日本のカラオケ文化に惚れ込み、感動した。選曲の豊富さから、使用されるサウンドシステムやマイクのクオリティ、ルームを盛り上げる照明、フリータイム中のお得な料金、そしてカラオケで提供される食事やドリンクの選択肢まで。主な活動は歌うことだけなのに、すべての要素が非常に細かく、良く考えられ、設計されているようで感心した。お部屋は清潔で、マイクも次の人が使用する前に消毒されているため、新型コロナウイルスの感染が広がる可能性も低く、問題にはならない。カラオケの種類も色々ある。3つのスクリーンに煌め

くミラーボールを備えた最大 30 名まで収容できるパーティールームのカラオケもあれば、一人専用の小さなルームと小さいスクリーンを備えた一人カラオケ専用のカラオケ店もある。私は一人カラオケ専門店を利用したことがあるが、この店を知ったのは帰国が迫ってからで、1 回の利用で 1 時間しか歌わなかったことがとても残念だった。

カラオケでは歌うことがメインの活動であるため、人前で歌うのを嫌がって、カラオケに行くのが恥ずかしいと感じる人も多いでしょう。カラオケは、歌のスキルを見せる機会になるかもしれないが、カラオケの本当の意味は単に歌の美味さを披露するだけではない。カラオケは、一緒に時間を過ごし、音楽と一緒に楽しむこと。自分の歌のスキルが優れているかどうかを判断したり気にしたりする人はいない。カラオケで一緒に時間を過ごすことで、その人の性格や音楽の好みを知ることができ、より親しくなり、友情も深まる。特に、留学生のメンバーがいることで、様々な国の音楽をより幅広く知ることができるし、自分の好みに合った新しい音楽の発見もあるかもしれない。異なる国から来た、異なる言語を話す人たちであっても、同じ部屋に集まり、歌い、踊り、音楽でひとつになれる。音楽は本当に人と人を繋ぐ力があり、誰にでも理解できる世界共通言語であることを改めて実感した。

日本での留学生生活の中で、カラオケは大切な友人たちと過ごした、忘れられない思い出の一つだった。2022~2023 年度の日研生全員が最後に全体として集まった場所は、カラオケだった。最後にみんなで「365 日の紙飛行機」と「上を向いて歩こう」を歌ったことが、今でもよく覚えている。もう一度みんなで集まって一緒に歌える日が必ず来ると信じている！



ブラジル人って何—日本で見つけた私

ジュリア（ブラジル）

国籍を持つのは何という意味があるのだろうか。どうやって特定の国の市民となるのだろうか。その国で生まれたこと？ その国の祖先がいること？ 前者と後者？ ある国の国民になるのはどんな条件に関わらず、自国への不満を感じることは多いのではないだろうか。不景気、犯罪率、社会的不平等の理由で他国に移住する人々も決して少なくはない。ただし、新しい国に移り住むと、そこで別の問題に直面せざるを得ない。その国での自分は一体どのような存在なのだろうか？ その新しい社会で私はどこに所属するのか？ その国の市民に、どのような目で見られるのか。来日して以来、そのようなことを自分に聞いた問題の答えは次のようになってきた。

海外に行く前に、ブラジルは私の世界だった。豊かな国。サンバとサッカーの国。ブラジル人はどこへ行っても、そのようなステレオタイプがつきまとう。しかし、ブラジルにいた時、周りを観たら、顔形は違ったが、共通していることがあった： 国籍。ところが、ブラジル人って一体、何の意味だろうか。ポルトガル語を話す人間なのだろうか？ カーニバルを楽しむ人間なのだろうか？ サッカーが得意な人間なのだろうか？ あるいは、このようなステレオタイプを断りながらブラジルの新しい面を示したい人間なのだろうか？ ブラジルから離れていた期間、ブラジル人であるのは主観的なものと気づいた。一日中、外国の方や日本人に囲まれて、ブラジル人であるという意味がようやく理解ができた。

ブラジル人であることは、母や友人と母語でコミュニケーションをとりたいということだ。

また部屋中に広がる香りを嗅ぐためだけに、1日に何度もコーヒーを飲みたくなること。

ブラジル人であることは、国歌の「愛されし土地/他の何千もの中で/君こそが、ブラジル/おお、愛しき祖国」という部分が理解できるということ。

そして、ブラジルを追放されたゴンサルベス・ディアスという詩人のように、以下のような神様への懇願（こんがん）をすること。

「神よ、どうか許してくれ、
私が故郷に帰る前に
ここで見つけられない美しいものを見ずに

ヤシの木も見ずに
ツグミが歌うところを見ずに
私を死なせないでください」

また、ブラジル人であるというのは、会話の中でペレの話題が出てきた際、誇りを感じることだ。

新年の前に、良い物を迎えるのに大掃除をすること。

クリスマスや復活祭など宗教に関係がある祝日を楽しむこと。

ブラジル人であるというのは、母と父一人ずつからの苗字をつけられること。

そのブラジルらしさは当たり前すぎて、日本でいる間に気づいた。

ブラジル人であることは、ブラジル連邦共和国と書かれたパスポートを所有すること以上のものだということに、日本に来て初めて分かった。

もう一つの気づいたことは、子供の頃から抱いていた夢を実現するのは苦しいながら、成長ができる機会であるに違いない。日本に来たからこそ、大好きな日本語が話せるようになり、外国人の友人を作るようになり、想像もできなかったような経験をすることができた。

渡ったそれぞれの通りで
話した日本人との話の中で
祈った各寺で
自分自身を見つけた。

自分自身を見つけながら「ブラジル人って」という質問への答えができた。

ブラジル人としてのアイデンティティは、日本での旅を通じて深く理解でき、自己認識の喜びをもらった。どんなに離れても、私がどこにいても、ブラジルの一部であるということを心から誇りに思う。



ベトナムのクジラを崇拝する民俗習慣

ズイ（ベトナム）



クジラは世界最大の動物です。クジラは魚のような形をしており、常に水中で生活していますが、実際には卵ではなく子供を産む哺乳類です。クジラは、その巨大な大きさとあらゆる海に生息することと特別な生物学的特徴から、海の象徴とも考えられています。多くの文化の民間信仰では、クジラは船の守護神として幸運をもたらしたり、漁師を襲う怪物であることもあります。今日は、この東南アジアの国におけるクジラについての興味深い事柄を知るために、ベトナムの民間信仰におけるクジラについて学びましょう。

ベトナムは南北に続く長い海岸線を持つ国です。古くからベトナム人にとって、海と暮らしの関係は欠かせないものでした。ここから鯨崇拝の文化が生まれました。多くの歴史研究によると、クジラはベトナム南部の古代チャム族（2世紀生まれ）によって崇拝されており、北ベトナムの古代ベトナム人も古代から崇拝を行ってきました。両国の文化の違いはありますが、鯨神に航海安全を祈願するという鯨信仰の目的は同じです。

ベトナムの漁師たちがこの魚に絶大な信頼と敬意を寄せる理由は、歴史上、クジラが漁師の窮地を救ったという記録が数多く残っているからです。

その中で最も有名なのは、クジラがグエン卿を救った物語です。ベトナムの歴史には、ギアロンとしても知られるグエン・アイン王と、国の困難な時期にクジラが助けてくれたという魔法のような物語があります。この物語は民間伝承の一部であるだけでなく、ベトナムの歴史における重要な人物の出現を記念する特別な歴史的出来事でもあります。伝説によると、ある日、グエン・アイン王がマック軍に追われ、国を失う危機に瀕していたとき、海底から大きなクジラが現れ、王の逃亡

を助けたという。このクジラはマック軍の軍艦を岸から遠くまで押し出し、グエン・アイン王を敵の追跡から救いました。この奇跡的な援助のおかげで、グエン・アイン王はマック軍との戦いを続け、権力を取り戻す機会を得ました。勝利して王位に就いた後、グエン・アイン王はクジラの犠牲を評価し、敬意を表するために、このクジラを陸軍の高貴な地位である将軍に任命するよう命じた。この逸話以来、ベトナムの沿岸部のほとんどの地域でクジラ崇拝が行われるようになりました。

クジラ信仰の風習は、地域によって異なりますが、一般的には年に2回大きな祝日があります。1つ目は旧正月後の1月に行われ、この祝日では新年が釣りや船旅がスムーズで平和に過ごせるように、魚の保護を祈る儀式が行われます。2回目の礼拝儀式は通常、旧暦の7月または8月に行われ、海の波や自然災害から漁師を守り、祝福してくれる魚に感謝するためのものです。儀式は通常、午前10時に鯨の寺で始まります。儀式には、駕籠をかつぐ屈強な若者4人が先頭に立ち、漁師が後ろに並び、北海岸から南海岸へ、あるいはその逆に行進します。このパレード中、メンバーは海の神様を呼び起こし、漁師や死んだオングの魚の精霊とともに儀式や祭りに参加します。パレードには、ベトナムの伝統楽器を使って民謡を演奏するミュージシャンも参加します。パレードが終了すると、人々は集まって飲食を楽しみます。夕方には民族音楽の演奏があり、みんなで歌いながら翌朝まで楽しい時間を過ごします。

クジラはベトナム人の精神生活において重要な役割を果たしています。クジラ崇拝の文化は過去の一部であるだけでなく、ベトナム人の誇りと自然と調和して生きる姿勢、そしてベトナム人の敬意とつながりの表現でもあり、この遺産は保護され、保存される必要があります。これらの民俗文化的価値観が将来の世代に受け継がれることを願っています。



留学生生活の振り返りと旅の見聞

劉 莫寒（中国）

学部生として初めて和歌山に来た私が、この四年間はずっと和歌山に生活し、まもなく卒業生になる。海や山があって自然豊かで、みかんと柿がおいしい和歌山県は静かで緩やかな都市だ。県民ものんびりで親切だと感じており、私にとって和歌山は「桃源郷」のようなところだ。賢い人ではないので、大学生活の最初の三年間は勉強などに追われていた。しかし卒業するまでの最後の一年間は授業が少なくなり、また縁が良くて就職活動が終わったため暇になった。WINのおかげで、様々な行事や旅行活動に参加することが出来た。

一つ印象に残ったのは 12 月末の八朔祭りという行事だ。柑橘の一種の八朔は、果実は大きく、果皮が黄色でやや厚いが、果汁がたっぷりだという特徴がある。その行事に参加する前に、一人の知り合いが「八朔の匂いが良くてジャムなどにすれば美味しく食べられるけど、そのまま食べると、とってもとっても酸っぱいよ」と言ってくれた。

やっと八朔祭りの日を迎え、朝から WIN の方が車で私達留学生を和歌山の紀の川市の農園に連れて行ってもらった。農園は山の中にあるため、周りの残雪が見えた。しかしそれほど寒くなかった。WIN の方は、日本では新年に雪が降ると、これからはラッキーになれるそうだと教えてもらった。ちょうど中国でも「瑞雪兆丰年」（瑞雪は豊年の兆し）という意味の近い諺がある。

農園に着き、初めて八朔畑を見た。八朔の木は思ったより小さいが、果実は重くて大きく見える。農園の管理者さんに八朔祭りのスキル「果実だけを摘んで、上の枝葉を取らないで」ということを教えてもらった。実践してみたら、なかなか難しかった。みんなの努力のおかげで収穫活動が完了した。現場で八朔を食べてみたら、知り合いの言った通り、酸っぱくて苦いだけだった。その時、WIN の方が、収穫してから何ヶ月か放置し、来年の 2、3 月に食べると美味しくなると微笑んで言ってくれた。確かにそうだった。家に何ヶ月か置いていた八朔をもう一回食べると、甘くてジュシーになっていた。八朔祭りは私にとってとても面白い体験だった。

もう一つ心に残った活動は 2023 年の淡路島の旅だ。瀬戸内海にある淡路島は兵庫県に属し、本州と四国の間にある。その日は快晴で、到着して



からまず驚いたのは、淡路島の海がとても綺麗だということだ。淡路サービスエリアから眺めると、遠くの間と世界最長の吊橋、明石海峡大橋がはっきり見える。明石海峡大橋の長さは約 2000 メートルで、神戸市と淡路島を結んでいる。遠くの間は青い宝石のようで、穏やかで、広くて、見るだけで気持ちが落ち着く。多賀の浜ビーチに着いたら、目の先の海水が澄んで透明になる。間の風と太陽の光で、白い波が踊って海がきらきら輝いていた。

兵庫県は三回行ったことあるが、そのうち二回は WIN のかげで旅行に行ったのだ。淡路島の旅の前に、WIN の活動で香美町の但馬高原植物園を観に行った。その自然植物園は緑豊かな世界で、植物園はそんなに広くないが、園内の大きな、小さな、知っている、知らない木や草、花などの植物が様々ある。以前、兵庫県と言え、ファッションな神戸市しか思い浮かべなかった。WIN のかげで兵庫県は大都市があるだけではなく、自然豊かという面があるということが実際に体験してわかるようになった。

大学生活を振り返ると、たくさんの友達ができ、そして WIN との出会いによって様々な行事を体験し、自分の視野を広げるようになった。更に彼らのおかげで学業を順調に終え、就職先の内定を獲得できるようになり、本当にありがたいと思っている。和歌山で四年間の大学生活をこれからも永遠に懐かしむことだろう。

淡路島バス旅行へ

陳 安娜（中国）

10 月 29 日朝 7 時 30 分、ワクワクしながら私は友達の部屋のドアをノックしました。今日は WIN コンコード主催の淡路島バス旅行に行く日です。

WIN コンコードが用意してくれたジュースとお菓子を持ってバスに乗ったら、14 カ国から集まっ

た他の留学生達が先に席に座っていました。運転手さんの「では皆さん、出発しますよ」の声を聞いたら、皆ワイワイになって「はい～」と返事しました。日本に来て一か月が経ち、これが初めてのバス旅行ですから胸がすごく躍りました。窓を通して外を覗くと、私達の旅と相まって雲一つない澄んだ青空でした。雰囲気がちやうど盛り上がったところで、急に頭の真上からマイクが現れてびっくりしました。何かが始まるのかなと思って、インドネシアとマレーシアの子がマイクを持ってカラオケで歌いだしました。素晴らしい歌声のおかげであつという間に車内での時間を過ごし、最初の目的地の、淡路 SA に着きました。綺麗な観覧車とその向こう側にある平らに広まった淡路島の水平線に感動して、私は息つくことさえも忘れちゃいました。淡路ハイウェイオアシスに行って皆と秋が旬の食材を料理した和食定食を美味しく食べながら、自己紹介をしました。他の国から来た留学生達に触れるいい機会になりました。

一休みの後、またバスに戻って、WINの方に「皆さんはコスモスの花言葉を知ってますか」と聞かれました。それは次の目的地の花さじきという所には秋を代表する花「コスモス」が色鮮やかに広がっているからです。花さじき公園で青空を眺めながら、風が吹きて、花の匂いが頬につきました。見渡す限り、カラフルなコスモス、青が鮮やかなブルーサルビア、真っ赤なサルビアのじゅうたん、フォトジェニックにも映えるように咲いてそして散っていくのでしょうか。違う国の友達とベ

ンチに座って、目を閉じて、晴れる花畑に浸って全ての悩みを忘れちゃい、気分もよくなってきました。そのとき、コスモスの「謙虚」や「調和」という花言葉が実感できました。色々な国、様々な文化の人々はこのように集まることができるのは、きっと皆は理解し合おうと思ひながら、謙虚に他の文化を受け止め、自分の文化との調和を求めているからでしょう。

暖かく柔らかい日光を浴びながら、多賀の浜ビーチで友達と話したり、散歩したり、写真を撮ったりしました。心も日差しのようにポカポカになって、大変癒されました。その後、伊弉諾神宮にも行きました。伊弉諾神宮は淡路市多賀にある、古事記・日本書紀や神話にも登場する伊弉諾尊と伊弉冉尊を祀る日本最古の宮だそうです。境内は国生みに始まるすべての神功を遂げた伊弉諾尊の神宅の旧跡と伝えられ、神々しい趣で参拝者を迎えてくれます。WINの方の紹介で私達も日本の歴史についてさらに詳しくなりました。最後は神戸モザイクに寄りました。茜がさすころ、皆は最も高揚していたときの集合写真を撮った後で、別々にビルの中で行動してきました。

帰り道、日本や和歌山のクイズに答えて、皆はそれぞれプレゼントをもらいました。その時、「みんな、空を見て！」誰かが声を出しました。見上げれば満月が薄暮に浮かんでいました。窓に映る皆の笑顔は、たぶん私達の心の中で永遠に褪せないでしょう。WIN コンコードのおかげで、忘れられないほど幸せで充実した一日を送りました。



新留学生紹介(2024 年)

ピユミ (スリランカ)

皆さんこんにちは。私はピユミです。スリランカのコロomboの出身です。スリランカのケラニア大学の人文科学部の現代言語学科の日本語専攻 3 年生です。私の母は日本語の先生でそれがきっかけで日本語を勉強し始めました。子供のころから母が日本語を教えているのを見て私も日本語を勉強したかったです。今、日本語を勉強し始めて 7 年間になります。子供の頃は「おしん」というドラマを見たことがあります。他にも、いろいろな日本のドラマとか映画とかを見たことがあります。

私の趣味は歌を聴くことです。毎日夜スピーカーで歌を聴いています。私は習慣として一週間に 2、3 回ぐらい夜散歩しています。コンビニで何かの飲み物を買って、歌を聴きながら散歩するのが大好きで気持ちもいいです。夜はあまり人がないから時々歌を聴きながら踊ります。そして、旅行するのも好きです。スリランカにいるとき友達とたくさん旅行しました。また、毎週末外食していました。いつもいろいろなレストランに行って新しい料理をためすのが楽しかったです。今も毎週 1 回ぐらいみんなで外食しながらいろいろなことをしゃべっています。それは今私たちの習慣になっています。日研生のみんなはいろいろな国から来た人だから一緒に過ごす時間がとても面白いです。いろいろな国の文化や食べ物や習慣などについて話をしてびっくりしたこともあります。そのようにいろいろな文化について話し合うのが大好きです。

今は、和歌山の生活を楽しんでいます。和歌山で住んでいる 1 年間は私の人生で一番幸せな 1 年間になると思います。よろしくお願いいたします。

ハニサ (マレーシア)

皆さま、こんにちは、私の名前はハニサと申します。マレーシアのケダから来ました。今年二十歳になります。この度、私はご近所にお住まいになる予定の新入りとして自己紹介させていただきます。再来週引っ越してきますが、すでに皆さまとコミュニティに参加できることを楽しみにしています。皆さまからの温かいご支援に心より感謝しています。

私は観光学を学ぶ学生で、和歌山大学で勉強する予定です。私が和歌山大学を選んだのは、私の先生が和歌山大学の観光学科を最適だと強く勧め



てくださったからです。

私の旅は 2024 年 3 月 21 日に成田空港に到着する予定です。この新しい人生の章に乗り出すことができることにワクワクしており、とても歓迎されるご近所に参加できることに感謝しています。

何かお手伝いできることがあれば、お気軽に声をかけてください。そして、私にも何かお役に立てることがあれば、遠慮なくお知らせください。みんなで助け合いながら、友好的なご近所関係を築いていけたらと思っています。

何か質問や要望があれば、どんなことでも遠慮せずに言ってください。皆さまのご支援に心から感謝しています。

よろしくお願いいたします。

ノミン (モンゴル)

私はガントムル ノミンと申します。出身はモンゴルで今年 23 歳になります。私は 2021 年 6 月に来日しました。大阪日本語教育センターで日本語と日本文化を学び、同年の 12 月に日本語能力試験 N1 に合格しました。続いて、3 月 16 日に京都コンピュータ学院を卒業し、4 月から和歌山大学の経済学部 に 3 年生から編入します。現在、京都に住んでいます。

12 歳のノミンに「10 年後の自分がどこで何してるだろう」と聞いたら絶対日本以外の国について答えるでしょう。しかしながら、時間の流れとともに日本に興味を持ち、来日してから色々なことがあったが、いつも感じれるのは日本と日本人の温かさだろうと考えるのが多くなりました。2021 年から一人暮らしで、大阪から京都に引越し、京都に来てからも一人暮らしが続いています。それで、ずっと自分のこと一人ぼっちだと思ってきたが、最近気づいたのは私は元から一人じゃなかったということです。日本語学校の頃、病気にな

ったときは日本語の先生と一緒に病院行ってくれたり、あまり話したことがないクラスメートが薬を買ってくれたりして、ずっと人の温かさに触れていました。それに、今はアルバイトで友達ができて、みんなが引越しを手伝ってくれたり、夜遅くなったら家まで送ってくれたり、日本語も教えてくれたりしているのは留学生の私にとって家族のようなものなんです。

日本と日本人の温かさに憧れて、私もほかの人を手伝ったり、声をかけたり、優しくしてあげたりして、自分で感じたこの幸せをみんなに伝えたいと考えています。これから和歌山大学に編入し、また新しい環境に身を置きますが、一つのことだけ知っています。それはこれからこの国と人の温かさを感じていくことです。

ティン（ベトナム）

お世話になっております。はじめまして、ホーチミン市師範大学からの交換留学生グエン・ティ・キエウ・ティンです。ベトナム人で22歳です。私は性格が明るく活発で、常に新しいことを探求し、学び続けることに情熱を持っています。趣味について、暇な時間には、映画を見たり、音楽を聴いたり、友達と遊んだり、家族と電話で話したりしています。また、外国語学習が好きで、日本語以外にも自分で中国語と英語を学んでいます。国の母語を使って他国の文化を学ぶのは本当に面白いです。

私は和歌山についてインターネットでたくさん調べました。和歌山は、美しい自然と豊かな文化遺産を持つ魅力的な場所です。和歌山は、温暖な気候で、人々も親切です。きっと、自分にとって住みやすい場所となると思います。今回留学する機会は、様々な文化を体験し、海外や日本からの多くの友達と交流できる絶好の機会だと考えています。和歌山の皆様にお会いしてお話しできるのを楽しみにしています。

私は帰国したら、2025年に卒業することになっています。同時に、日本語能力試験のN1資格を取得するつもりです。大学卒業後、ベトナムや日本で吸収した大学の知識を生かして日本語教師など日本語教育に関する分野に貢献するつもりです。未熟な点も多いですが、毎日自分を頑張らせて磨き、今後ともよろしく願いいたします。

クイン（ベトナム）

私は新入交換留学生のクインと申します。まず、性格について話したいと思います。私のモット



は「何かをするとき、一所懸命頑張ります。」であり、取り組むことで自身の中でもやる気が湧き、いい結果を出すことができると思います。そのため、いつも力を入れ、きちんとやります。学業以外では、ホーチミン市師範大学のいろいろな活動に参加しました。特に、「2023年日本語教育支援システム研究会 CASTEL/J」でのサポートスタッフを務めたり、和歌山大学の学生とフィールドリサーチしたりしました。その活動に取り組むことを通じて、日本についてもっとわかってくるのは当たり前であり、日本人の仕事ぶりや習慣も学べると思います。

次、和歌山大学で学びたい理由について話したいと思います。ホーチミン市師範大学では、会話や聴解、作文、読解などの講義を受けるだけでなく、翻訳や日本語ITやビジネス日本語などの知識を身につけました。しかし、自国で一生懸命勉強したにも関わらず、日本の方々と交流する時、少し緊張してしまい、自国で身につけた知識をうまく使うことができません。和歌山大学の交換留学は実践的に日本語の会話スキルを身につける貴重な機会だと考えています。私は日本語を勉強するだけでなく、現地で生活することで日本の社会や文化の理解を深めたいと考えています。和歌山大学では日本語と和歌山の文化を統合した日本学を学ぶことができるプログラムがあることを知りました。このプログラムを通して、言語能力を向上させ、日本社会及び日本文化を体験したいと考えています。今後ともよろしく願いいたします。

キム（韓国）

初めまして。私は大韓民国の慶北大学校から来たキムウンジョンと申します。観光学を専攻している4年生です。大学入学と同時にコロナウイルスが拡散し、海外で勉強することへの期待を最初

からしていませんでした。しかし、コロナが次第に収まり、以前から経験しなかった交換留学を準備することができました。

旅行で接した日本は、物静かながらも楽しめる所が多い国でした。いつか海外で暮らせる機会が与えられたら日本で暮らしてみたいとよく思っていました。交換留学生として日本で生活することができて嬉しいです。半年間の留学なので短いですが、その中で学びたいことも、経験したいこともたくさんあります。

現在、私は大韓民国の韓国観光公社で働きたいし、その中でも国際観光本部 MICE チームで国際会議を誘致することを目指しています。長くない期間ですが、日本で生活しながら言語能力と広い視野を得られると信じています。

交換留学生は、大学生ができる大きな挑戦の一つだと思います。育った所を離れて外国で自分が選んだ専攻を勉強し、多様な国の人々と関係を築いていける機会は人生で簡単に与えられないからです。和歌山大学で成長していく自分自身がとても楽しみです。自らの発展と共に多様な人々と思い出を作ることができる機会を大切に、有意義な生活ができるよう最善を尽くします

呉 慧怡（中国）

はじめまして、呉慧怡と申します。浙江師範大学の大学院生二年生です。出身地は中国の南にある、香港やマカオと隣接する大都市である広州です。中学生の頃から日本のポップカルチャーに興味を持ち学部生の頃から日本語の勉強をはじめた。

日本のポップカルチャーというと、特に日本の音楽とお笑いに興味を持っています。最近は音楽ライブに参加したり、レコード屋を巡ったり、日本のレコードを集めたりしています。また、友達のおすすめしてくれた ippon という番組をきっかけに、日本のお笑いにもハマっています。普段の疲れが取れるように、私はハイキングしたり、自然風景や野鳥の撮影もしたりしています。

自分は将来、日系企業に就職したいので、和歌山大学で日本語の会話力を向上させ、ビジネス日本語やビジネスマナーなどを学び、将来の職場で応用したいと思います。また、卒業論文の表現力を上げるために、本場の日本語表現ときちんとした書き言葉を学びたいです。なお、日本の社会と文化に興味深く、和歌山の自然と歴史文化についても学びたいと思います。

日本に留学することは学部生の頃からの夢ですが、コロナ禍で行く機会が失われました。そのた

め、今回、和歌山大学に留学することは自分にとって日本の言語、文化、自然を深く知る貴重な機会です。将来、和歌山大学で身につけた語学力だけでなく、異文化コミュニケーション能力や課題解決力なども職場で活かしたいと思っております。どうぞよろしくお願いいたします。

2023 年度 活動経過

3 月 31 日	新入生歓迎お花見 加太国民休暇村運動広場
4 月 3 日	世界遺産高野山研修
4 月 7 日	吉野山観光
4 月 9 日	丹生都比売神社花盛祭 渡御行列
4 月 28 日	ホームパーティ（会員宅）
5 月 3 日	有田川町清水観光
5 月 4 日	農作業体験（和歌山市）
5 月 13 日	名草山ハイキング
5 月 21 日	白浜観光
5 月 21 日	高野山観光
5 月 27 日	WIN コンコルドニュースレター第 33 号発行
5 月 28 日	第 15 回 NPO 法人 WIN コンコルド総会 留学生スピーチ「インド」「モンゴル」
6 月 6 日	マレーシアからの卒業生来和歓迎会
6 月 17 日	那智の滝、熊野古道
6 月 18 日	白浜観光
6 月 24 日	和歌山大学同窓会「柑芦会」参加
6 月 29 日	和歌山市 海南市案内
7 月 9 日	但馬高原植物園 神戸異人館周辺観光
7 月 13 日	紀三井寺 紀の川市平池周辺
7 月 16 日	歌舞伎鑑賞 大阪松竹座
7 月 17 日	農業体験（収穫作業）
7 月 23 日	浴衣着付け（花火大会）
8 月 6 日	那智の滝 橋杭岩
8 月 23 日	卒業生来訪（韓国）
8 月 23 日	卒業生来訪（マレーシア）
8 月 28 日	和歌山市内案内
9 月 3 日	那智の滝 徐福公園観光
9 月 4 日	洞川温泉 みたらい溪谷
9 月 20 日	日研生修了式 着物着付
9 月 21 日	送別会
9 月 30 日	日本舞踊鑑賞「名月に舞う」
10 月 1 日	後期新入留学生歓迎会
10 月 21 日	大相撲和歌山場所秋巡業 見学
10 月 29 日	淡路島旅行 花さじき 明石海峡大橋 多賀の濱 伊弉諾神宮 神戸モザイク
11 月 3 日	みたらい溪谷 大台ヶ原

11月12日 華岡青洲の里 他
 11月19日 白浜 コンサート
 11月25日 奈良観光
 12月9日 和歌山大学同窓会「柑芦会」参加
 12月10日 餅つき（ボーイスカウト）
 12月10日 ホームパーティー（会員宅）
 12月16日 「第21回学長杯留学生によるスピーチコンテスト」奨励賞贈呈
 12月23日 八朔祭り・忘年会
 1月2日 初詣・新年会
 3月14日 卒業生を送る会

年間

- ・就職活動支援
- ・生活関連の情報提供や支援
- ・生活用品の貸与 自転車（点検 修理）炊飯器
- ・日本社会や文化等の学びを支援
- ・ホストファミリーとして支援
- ・卒業生との交流

インド料理：日本で人気の料理の一つ！

コウシク（インド）

日本人はインド料理が大好きです。学生として初めて日本に来たとき、日本でのインド料理の人気の高さにとっても驚きました。日本に来たらずひ試していただきたい料理の一つが日本版インド料理です。そんなインド料理の初心者向けに日本のインド料理を紹介したいと思います。

和歌山で行ったインドカレーのお店は、ネパールから来た人たちが営む小さな個人店です。ネパール料理よりもインド料理の方が人気があるため、はネパール人がインド料理レストランを経営しています。

日本人が家庭で楽しむカレーは、お店で食べるインドカレーとは大きく異なります。日本のインドカレーは、オリジナルのレシピをそのままに、日本人の口に合うように甘めにアレンジしたものです。カレーペーストも濃厚です。色もオレンジ色や赤みがかった鮮やかな日本のカレーとは異なります。

インド料理の注文方法がわからない場合は、セットメニューを注文してください。何を注文すればよいか分からず、インド料理に詳しくない場合は、セットメニューを注文するのが最も安全な方



法です。メニューは、数種類のセットメニューから選択できます。ナンや数種類のカレー、タンドリーチキンなど人気メニューがすべて入っているのでコスパも抜群です。

カレーの辛さはどのくらいにしますか？店舗によって異なりますが、1から10までの辛さのレベルがあります。食事を注文すると、ウェ이터さんがカレーの辛さを尋ねます。1から10まで指定してください。日本人はあまり辛いのが苦手なので、通常2～3倍の辛さを注文しますが、私たちのような南アジアや東南アジア諸国の人は8～9辛、最大10辛を好みます。

ベジタリアンの選択：ベジタリアンの方には、インド料理レストランが最適です。ほとんどのインド料理レストランでベジタリアン料理も提供しており、ベジタリアン セットを選ぶことができます。店舗によって異なりますが、通常は野菜カレー、ダールカレー（レンズ豆）、サーグパニール（ほうれん草のカレーとパニールチーズ）、そして運が良ければチーズナンも含まれます。ナンを野菜カレーに浸すだけで食べることができます。もちろん麦のアレルギーがある場合は、ナンの代わりにライスを食べることもできます。

日本の中華料理と同様に、インド料理も現地の味覚に合わせて変化してきました。日本のインド料理は決して辛すぎません。インド料理レストランは日本各地にあり、外国人が経営しています。日本に住むネパール人やインド人は巨大な人口です。メニューは通常、日本語と英語の両方で書かれていますが、最も重要な要素は、とても美味しくて予算に優しいことです。ランチセットは900円～1400円（8.10ドル～13.50ドル）。

インド料理店は日本各地にありますので、ぜひ見つけたお店に立ち寄ってインド料理を味わってみてください。あなたはきっと気に入ってくれるだろうと信じています。

この一年間は夏花火のようだ

ティエン（ベトナム）

あなたは日本の魅力が何か知っているか。それは、季節ごとに異なる特徴があるという魅力だ。春になると、桜や梅の花が空を彩り、にぎやかで陽気な雰囲気で花見に行くことだ。秋が来ると、道路や街角が黄色や赤の新色に染まり、紅葉を眺めるために人の流れがよりゆったりとしているようである。冬は雪がチラチラ降っている寒空の中、誰もがポケットに手を突っ込んで家路に急ぐ時期である。そして今は、じりじりと照る日差しと蟬の夏の声で、一緒に花火を見に行く若い女の子たちの浴衣の色が鮮やかな季節である。日本人にとって四季を過ごすのは当たり前のことかもしれないが、留学生、特に私にとって、このすばらしい四色を満喫できることはかけがえのない贈り物であり、日本語習得への何よりのモチベーションとなる。

2023年7月23日はまた忘れられない日、初めて日本の夏花火を見た日からである。確かに、初めてのことは忘れられない印象を残すことが多い。一人だけではなく、外国人の友だち13人と一緒に初めて浴衣を着た。私たちは国も文化も見た目も性格も異なるが、日本を愛するという共通点のためにここ日本に集まった。夏の浴衣を着た友だちの女の子たちを見ていると、なんか普段とやや違った感じで、それぞれが非常に可愛くて女性らしい格好をしている。それから、港まつりに参加するために一緒に和歌山港駅に行った。何回も言っていたが、また新たに、和歌山は私にいろいろな驚きをくれた。初めて賑やかなお祭りの雰囲気をはつきりと感じた。手を繋いで楽しそうに笑うカップル、子どもたちのにこにこ笑いで夕日の中の光景が明るかった。屋台がズラリと並び、人々で賑わっており、しばらく歩くと再び「あついね」という声が聞こえ、すぐに扇子や団扇であおいだ。

おそらく最初の花火が打ち上がるまで、賑やかさはまだ続くだろう。しかし、最初の花火が打ち上がると「わー、花火、はやくはやくもう始まったよ」と屋台に並んでいた人たちも、花火を鑑賞するのに最適な場所を見つけようとすぐに立ち去った。ここからは花火が華麗な輝きを見せる時間だ。夜空には無数の形、模様、鮮やかな色彩の花火が踊っている。花火はまるで光が灯ったばかりの光の妖精のようで、すぐに空に飛び出して輝く。



人々は花火が輝いているときしか美しく感じていないが、私にとっては花火の登場のすべての瞬間が非常に魅力的である。空に向かって真っすぐに打ち上がる花火の音に、花火の速さに合わせて心拍が高鳴り、今はどのような形、次はどのような色彩になるのかドキドキした。そして、花火が輝く瞬間は、私の心が喜びと爽快さでいっぱいになる瞬間でもある。それから、花火が終わり、煙の跡が落ちて空中に消えたとき、私の心は静かになった。こうして、1時間は長いと思ったが、束の間、ついに花火は美しく咲き誇り、観客の満足の拍手とともに終了した。

その日から、日本、特に和歌山は私に多くのすばらしいもの、美しい思い出を与えてくれたので、私の心はさまざまな感情で複雑になった。ああ、今まで長い道だったと振り返ることができた。私の周りに日本語の学びを途中で諦めた人が多い。残念だと思ったが、どうやら彼らは日本語がお互いに魅力を感じられなくなってしまったのではないだろうか。あるいは教科書で勉強するだけで日本の素晴らしさに触れる機会がなかったため、前向きに頑張ろうとする意欲や努力する意欲も徐々に失われていくのかもしれない。正直に言うと、私は日本語を勉強しながら何度も泣いたことがある。長い間勉強したのに上達できなくて泣いた、長い間勉強したのにJLPT試験に2回落ちて泣いた。しかし、何かを続けて頑張ったのに成果が出ないときは、どこかで間違ったことをしているはずと気づいた。そこで、何が自分と日本語の問題なのかを理解するために、2週間ほど日本語の教科書から離れなければならなかった。私の問題は、日本語や日本文化の奥深い面を実感することなく、表面だけを学んでいたからだと思う。したがって、十分学んだと思ったが逆に、何も手には入らなかった。自分の問題を知った私は、日本人学生との

交流活動に多く参加することを決め、「日本語への恐怖心」を改善しようと努めた。日本人が語る日本の物語を聞くと、日本語学習者の私の心は躍り、日本でそれを実際に体験する機会を得るためにもっと頑張ろうと、やる気になった。だからこそ、私は今、和歌山の留学生としてここにいるのかもしれない。

一年間は短くもなく長くもないが、和歌山だからこそ全てが充実しており、満足だと感じている。飛行機に向かうバスに乗った瞬間、本当にここを離れたくないのに離れなければならないので、大泣きすると思っている。しかし、和歌山やWIN コンコードのお母さんたちとメンバーから良い思い出を頂いたので、この1年間に得たものを幸せと笑いながら帰国すると思う。つまり、私の日本での1年間の旅は夏花火のように明るくて幸せで輝いている。したがって、最後に伝えたいのは「和歌山、大好きだよ！この作文を読んでいる人皆大好き！」

日本での感謝の旅

アズハル（マレーシア）

皆さん、今日も生きていることに感謝しましたか？「誰に向かって感謝すればいいの？」という質問も思い浮かぶでしょう。イスラム教徒の僕みたいな人はもちろん唯一の神様、「アッラー」に感謝を申し上げます。「イスラム教徒ではなければ？」と。もちろん、アッラーにでも全然いいですし、無宗教である方も問題なく感謝を申し上げますことができますよ！

そもそも、なんで感謝の話になりましたっけ？マレーシアではこういうことわざがあるからです。「神様に感謝することができない人は、人間同士にも感謝することが無理です」と。深いでしょう？それでは、自分の感謝の話を始めましょう！

政府派遣留学生として和歌山に来て、まさか面倒を見てくれるWIN コンコードがあるとは思っていませんでしたので、びっくりしました！他の県に住んでいる政府派遣留学生の友達に「こんな組織があるの？」と聞いてみたら、全然ないそうです。友達の良い反応を見たら、普通の顔だけでした。しかし、自分の心の中はいっぱい花が咲いている公園みたいに、改めてすごく感動していました。

一年生の時、日本の交通システムがあまりわからなかったせいで、旅行とかは自分で行くことはずっと無理でした。しかし、ある日中谷さんから

連絡が来ました。「白浜で刺身を食べるつもりなのですが、この日空いていますかー？」と。その時の自分はもちろん「白浜って何？」と知らないまま、「はい、空いていますよ。刺身、食べに行きましょう！」と答えました。まさか、あの旅が日本にいる間の最初の旅で、一番記憶に残っている旅になろうとは…

もちろん、その日から色々なところにWIN コンコードの皆さまに連れて行ってくれたり、自分で行ったり、旅行をしてきました。WIN コンコードの皆さまの暖かさのおかげで、自分もいつか他の新しい留学生にどこかいいところに連れて行こうかと思いました。2024年2月、やっとこの機会が来ました。

自分と仲が良いベトナムから来た留学生のタオちゃんとリンちゃんがそろそろ帰国する時、高野山まで連れて行きました。韓国人の友達のチャニのおかげで、他の留学生何人かも連れて行くことができました。チャニも運転してくれたので、8人も行けました。インドネシアから来たムティアと中国から来たアンナ、ヨウ、ソウも一緒でした。

高野山に行く途中、車の中で一緒に歌って、いっぱい喋れて、本当に楽しかったです。高野山に着くと、昼ご飯を食べました。その後、金剛峯寺、壇上伽藍、奥之院へ来ました。観光地から観光地まで歩いて行ったり、バスも乗ったりして、一秒一秒がすごく楽しかったです。みんなとたくさん話ができて、もっと仲良くできて、何よりいい時間を過ごしました。

今回の高野山の旅もできてすごく感謝しています。中谷さん、高橋さん、WIN コンコードの皆さま、大切な友達、今まで本当にありがとうございました。これからもよろしくお願いします。またたくさんいい思い出を作ること、楽しみにしています。







W I Nコンコード設立趣意書

現在社会は、政治・経済・文化のすべて分野で地球を一つの単位として捉え、はじめて、その機能を十分に発揮しうる状況に至っていると思われます。そして、このかけがえのない地球の責任を担っているのは、たった一つの「種」に留まる「ヒト」即ち人間であり、その一人一人の人間が確立された個として、地球の貴重な構成要素としての役割を果たすことが求められています。民族の違いは、多様な文化の豊かさを示すにすぎず、国境は行政を効率的に行うための境界にしかすぎないのです。

W I Nは、人間の知恵を結集し、愛すべき郷土和歌山が、人間味溢れるネットワーク、Human Active Networkで結ばれた、活性化された地域となるために活動するものです。そして世界各国から勉学の間を求めて留学して来る人々に、より良い環境を整えることは、ひとつの単位となった地球上にHuman Active Networkを構築するうえにおいても重要なことであり、これにより、地球のひとつの地域である和歌山が、世界とダイレクトに結びつき、和歌山の優れた文化が世界に紹介され地球の多様で豊かな文化環境の醸成に寄与できるのではないかと考え、我々は、W I Nコンコードを設立するものです。

NPO法人 WIN コンコード事務局

〒640-8215 和歌山市橋丁23番地N4ビル3F

TEL/FAX 073-426-0798

E-mail ryugakusei@win-concord.jp

<http://www.win-concord.jp>